

氏名（本籍）	近藤 智恵（茨城県）
学位の種類	博士（保健医療科学）
学位記番号	博甲第59号
学位授与年月日	令和7年3月14日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
審査研究科	保健医療科学研究科
学位論文題目	新卒看護師の職業的アイデンティティのゆらぎに影響を与える要因の検討

学位審査委員

主査	茨城県立医療大学教授	博士（図書館情報学）	富田 美加
副査	茨城県立医療大学教授	博士（ヒューマン・ケア科学）	堀田 和司
副査	茨城県立医療大学教授	博士（心理学）	佐藤 純
学外審査員	獨協医科大学教授	博士（工学）	板倉 朋世

論文の内容の要旨

【背景】

新卒看護師は、様々な経験の中で職業的アイデンティティのゆらぎを経験しながら成長している。一方、職業的アイデンティティのゆらぎは看護実践の質や職業継続意思を低下させる要因となり得るため、新卒看護師の職業的アイデンティティのゆらぎの立て直しサイクルを支援することが重要である。

【目的】

新卒看護師の職業的アイデンティティのゆらぎに影響を及ぼす要因を明らかにすることである。

第1研究では、新卒看護師の語りをもとに、職業的アイデンティティに影響を及ぼす要因を抽出する。第2研究では、新卒看護師の職業的アイデンティティのゆらぎに影響を及ぼす要因を明らかにし、職業的アイデンティティの発達を支援するための示唆を得る。

【方法】

第1研究では、2022年12月～2023年1月に、A県内の200床以上の病院に勤務する1年～3年目の看護師に対して、半構造化面接を行い、職業的アイデンティティに関連する体験に焦点を当てて、データをコード化し帰納的にカテゴリー化した。

第2研究では、第1研究で抽出された新卒看護師の職業的アイデンティティに影響を及ぼす要因、国内外の文献検討、有識者によるブレインストーミングの結果を検討して

質問項目を精選し、新卒看護師の職業的アイデンティティに影響を及ぼす質問紙（60項目）を作成した。全国の200床以上の施設を無作為に抽出し同意が得られた施設に、2024年4月に就職した新卒看護師の就職3か月後と就職6か月後の時期に、自記式質問紙による無記名オンライン調査を実施した。信頼性・妥当性が検証されている藤井（2002）が開発した、医療系学生における職業的アイデンティティ尺度20項目、新卒看護師の職業的アイデンティティに影響を及ぼす要因60項目を用いて調査した。職業的アイデンティティに影響を及ぼす要因の因子構造を確認するために因子分析を行い、各変数の影響については、相関係数、一般化線形混合モデル（GLMM）を用いて統計学的に解析した。

【結果及び考察】

第1研究の半構造化面接では、12名（看護師経験1年目が4名、2年目が5名、3年目が3名）の語りから、職業的アイデンティティに影響を与えた体験として、「自己の看護観」「看護師としての自覚と責任」「看護実践能力」「自分の役割や意識の変化」「業務に対する困難感」「職業継続に対する揺らぎ」「仕事と生活のバランス」「先輩看護師からの支援」「先輩看護師との関係性構築」「同期との関係性」「ロールモデルの存在」が抽出された。抽出された要因とグレッグの職業的アイデンティティ構造モデルの概念に属さないコアカテゴリーの「業務に対する困難感」「同期との関係性」「仕事と生活のバランス」「先輩看護師との関係性構築」「先輩看護師からの支援」「ロールモデルの存在」が、新卒看護師の特徴的な職業的アイデンティティのゆらぎに影響を及ぼす要因となっていることが明らかになり、就職後1年間は学校生活から職業生活への移行期であり、新たな環境、人間関係の適応が求められ、アイデンティティ全体がゆらぐ時期であることから、職業的アイデンティティ構造モデルの概念に属さないコアカテゴリーが抽出された可能性があることが示唆された。

第2研究の調査対象は、1回目の調査となる就職3か月後は621人（回収率17%）、2回目の調査となる就職6か月後は、247人（回収率40%）であった。就職3か月後の新卒看護師の職業的アイデンティティには、「看護に対する価値観」「自己の成長の実感」「他者との関係性」が影響していた。就職6か月後の職業的アイデンティティには、「看護の価値を実感」「看護師としての責任と自覚」「自己コントロール能力」「看護師を続ける気持ちの強さ」が影響していた。新卒看護師の職業的アイデンティティは就職3か月後に比べ6か月後は有意に低下しており、ゆらぎが生じている可能性が明らかになった。一般化線形混合モデル（GLMM）の解析により、いくつかモデルを作成し検討したところ、職業的アイデンティティのゆらぎに影響を及ぼす要因は「看護に対する価値観」「他者との関係性」であることが明らかになった。これらの要因を構成している詳細な項目を踏まえて支援を継続することが新卒看護師の職業的アイデンティティの発達を導くことにつながることを示唆された。

【結語】

新卒看護師の職業的アイデンティティのゆらぎに影響を及ぼす要因は、「看護に対する価値観」「他者との関係性」であった。それらの要因を構成している詳細な項目を踏まえた継続した支援をしていくことが新卒看護師の職業的アイデンティティの発達を導くことにつながることを示唆された。

審査の結果の要旨

近藤智恵氏の博士論文は、新卒看護師における職業的アイデンティティの形成について、アイデンティティのゆらぎに着目して探究したものである。

審査にあたっては、令和 7 年 1 月 29 日に最終試験を実施し、公開による発表及び質疑応答の後、学位審査委員 4 名による協議を行った。審査は、茨城県立医療大学大学院博士後期課程博士論文評価判定基準に基づき、創造性・新規性、専門領域の関連性とインパクト、論理性、信頼性・妥当性、論文の表現力、倫理的配慮の観点から評価した。

看護師の離職は解決すべき喫緊の課題であり、看護学領域において、職業的アイデンティティの形成過程に焦点を当てたことは有意義である。本研究では、新卒看護師の職業的アイデンティティのゆらぎに影響を及ぼす要因が「看護に対する価値観」「他者との関係性」であることを導いた点に大きな価値がある。これらの成果は、新卒看護師のみならず看護学生にも適用し得る具体的支援への展開が期待できることから、専門領域への貢献可能性が高いといえる。

一方、職業的アイデンティティの形成には長い期間を要すると考えられることから、本研究の根幹をなす「職業的アイデンティティのゆらぎ」に関する概念定義や測定方法等について、さらなる検討が必要である。この点については、プロフェッショナリズムに関する言及がないことが、職業的アイデンティティの形成過程を俯瞰する論理的基盤に影響を与えていたと考えられる。また、量的研究においても、主眼が「職業的アイデンティティの形成」にあるのか、「ゆらぎの影響要因」にあるのかが曖昧となり、「ゆらぎ」とそれに影響を与える要因との関連を直接的に明らかにするためには、研究方法の工夫が必要である。

倫理的配慮については、茨城県立医療大学研究倫理委員会の承認を得て実施され、必要な配慮が十分になされていると判断した。

最終試験において、研究の全体構成及び総合考察等に関する追加記述が必要であると指摘されたため、その後、再提出された論文によりその適切性について確認した。

以上の結果をふまえ、学位審査委員全員の合意のもとに、博士論文として適切であることを認めた。